

答

標準授業時数については、夏休みを短縮して

授業日に変更することで、年間を通じて平準化されると考えている。今後、第2波により臨時休業しなければならなくなつた場合は、冬休みの短縮、7時間授業の設定などの対応を考えている。また、詰め込み教育にならないよう、児童・生徒が学校生活に慣れることを第一に考えた対応を各学校に要請している。

心のケアについては、臨時休業中に学校から電話連絡や家庭訪問などを行い、児童・生徒一人一人の様子を把握し、家庭との連携を密にしてきた。学校再開後もスクールカウンセラーなどの活用を促し、各関係機関とも連携しながら、心のケアに努めたい。

感染予防については、家庭とも連携して感染予防教育を行い、新しい生活様式の定着を図っている。マスクの着用は、自分の体調を考え、体育科の授業ではマスクを外すなど臨機応変な対応ができるよう指導し、マスクをしていない児童・生徒には、学校に保管しているマスクを渡してい



皮膚に触れずに測定できる非接触型体温計

る。また、非接触型体温計は、早急に各学校に整備したい。

エアコンの使用は、教室の両側の窓を1か所開放した上で、通常室温27度の設定を、令和2年度は25度に設定して使用することとしている。

給食では、横並びで静かに食べるなどの対応に努めている。また、少ない品数で給食時間を短縮しつつ、適切な栄養摂取ができる献立とするよう調理場に通知している。

小学校の集団登校時は、マスク着用と、列の間隔を開け会話をしないなどの指導に加え、信号待ちなどでもできる限り密にならないよう交通安全協会や地域の協力を得ながら、感染予防と交通安全の両立を図りたい。

西条自民

クラブ

行元 博議員



1 市長の市政運営に対する考えについて
(一般質問)

市長任期最終年度

これまでの評価は？

問

市長は「市民主役の西条」「住みたい西条」「市民と進める行財政改革」「夢が持てるまち西条」「つながり広がる西条」の5つの基本政策を推進し、多くの成果を残されている。とりわけ、株式会社宝島社から公表された「2020年版住みたい田舎ベストランキング」において、本市が、若者世代が住みたい田舎部門で全国1位を獲得したことは、玉井市政の取組が全

国的に高く評価されたものであると考える。

市長は、今任期中の各種施策をどう評価し、また、今後の市政運営をどのように考えているのか。

答

市長就任以降「ワクワク度日本一」のまち西条の実現のため、5つの基本政策に基づく25項目の施策を掲げ、挑戦を続けてきた。

例を挙げると、住民が主体的に地域課題の解決に取り組む地域自治組織が市内3地区で設立され、そのほか7地区でも設立に向けた話し合いが進められるなど、協働によるまちづくりが進展していることや、西消防署河北出張所の開設により、地域住民へ安心を届けられたことがある。また、ベトナム社会主義共和国・フエ市、オーストリア共和国・セーボードン市との友好都市提携締結や台湾への地場産品の販路開拓により、国際的なつながりを広げてくれたこと、更に、これまでノウハウを蓄積してきたシティプロモーション活動が、政策間連携による相乗効果を発揮

し、移住・定住促進が一定の成功を得たことなどがある。

今後の市政運営については、第2期西条市総合計画後期基本計画に掲げる「みんなで実現しよう！持続可能な西条市（西条市SDGsの推進）」を達成目標に、取組を推進していく。全ては市民のためとの思いを胸に、本市の発展と住民福祉の向上のため、私ができるをなすべきか、何ができるのか、熟慮を重ねていきたいが、今は、新型コロナウイルス感染症により打撃を受けた本市の社会経済活動の回復に心血を注ぐことが市民から求められていることと考え、覚悟を持ってその任に当たりたい。



持続可能な西条市の実現を！